

地域包括ケアを支える医療と福祉人材の養成に関する取り組み(その1)

「長崎多職種連携・たまごの会」の形成・発展過程における教育の実際と学びに焦点を当ててー

吉田麻衣(長崎純心大学医療・福祉連携センター)
 潮谷有二(長崎純心大学医療・福祉連携センター)
 永田康浩(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
 地域包括ケア教育センター)
 奥村あすか(長崎純心大学医療・福祉連携センター)
 宮野澄男(長崎純心大学医療・福祉連携センター)
 HP <http://www.n-junshin.ac.jp/cmwp/>
 Facebook <https://www.facebook.com/cmwp.njunshin>

I. 研究目的

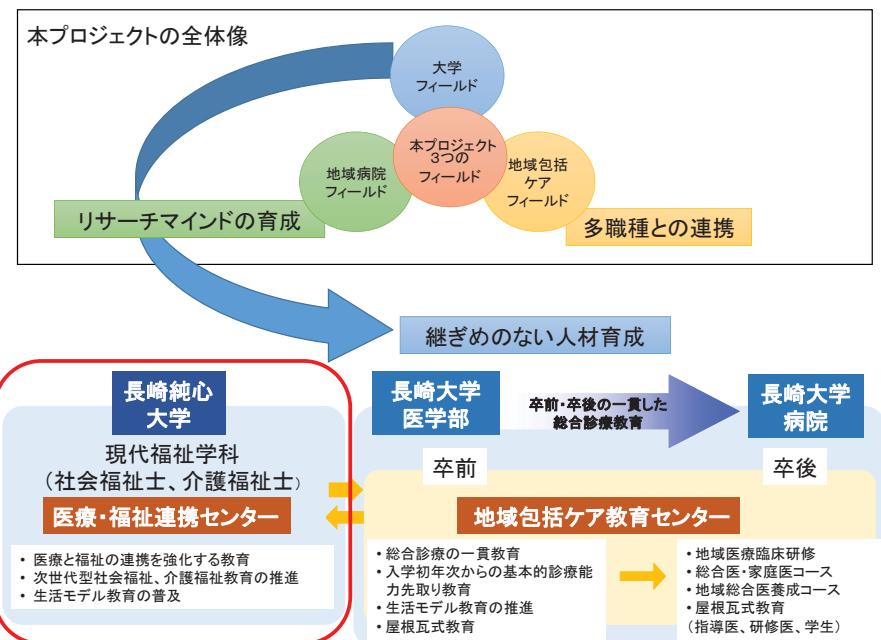
- 団塊の世代が75歳以上になる平成37(2025)年を見据え、できる限り住み慣れた地域で人生の最期まで尊厳をもって自分らしい生活を送ることができる社会の実現に向けて、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現することが求められている。
- このような状況の中、長崎純心大学医療・福祉連携センターは、平成25年度文部科学省「未来医療研究人材養成拠点形成事業【テーマB】リサーチマインドを持った総合診療医の養成」において、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科地域包括ケア教育センターと連携して「つなぐ医療を育む先導的教育研究拠点の構築—人と人、場と場、ケアとリサーチをつなぐ総合診療医の養成—」プロジェクトを実施するために平成25年10月1日に設立された教育研究組織である。
- このため、当該事業の実施にあたっては、地域包括ケアを支える医療、福祉専門職の人材養成に資する教育システムを構築するために様々なプロジェクト(以下、教育プロジェクトという。)を行っており、それらについては、長崎大学医学部医学科や長崎純心大学人文学部現代福祉学科等の学生たちが参加してきている。そして、様々な教育プロジェクトに参加した一部の学生たちが「長崎多職種連携・たまごの会(以下、たまごの会という。)」という勉強会のサークルを設立した。
- そこで、本報告では、長崎大学と長崎純心大学の連携事業(以下、本事業という。)の教育プロジェクトに両大学の学生が参加し、たまごの会が形成・発展していく過程に関する教育内容や学生の感想文等の基礎資料の収集及び整理をし、福祉系学生の学びや気づきを明らかにし、多職種連携教育の一助に資することを目的とした。

II. 方法

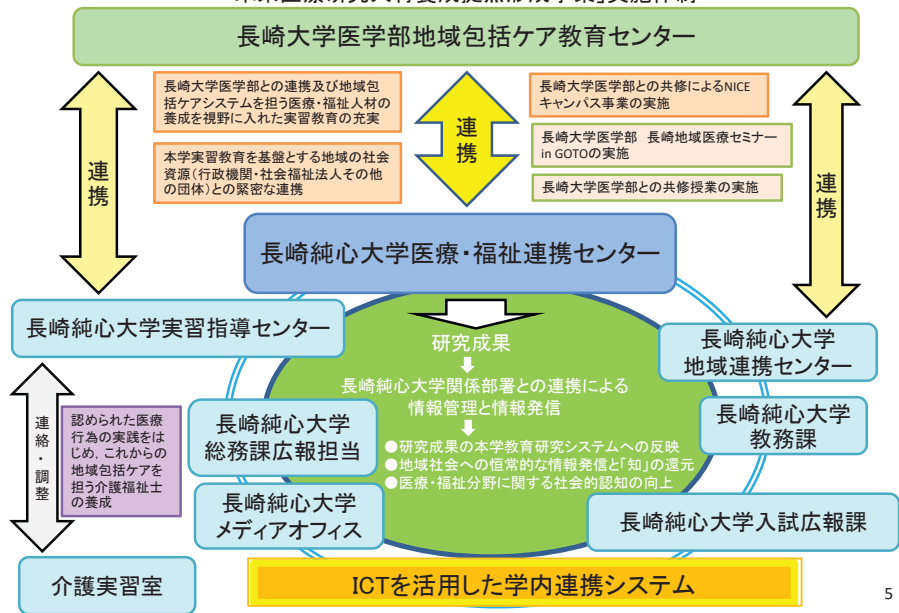
- 研究方法は、平成26年4月9日から平成28年4月2日の間に、学生が参加した本事業の教育プロジェクトにおける配布資料、音声や動画、写真、教育プロジェクトに参加した学生の感想文や学生が作成した発表資料等の資料収集を行い、教員の対応やその時に学生への刺激となった出来事なども踏まえて、整理していくこととした。
- 研究対象は、本事業の教育プロジェクトに参加した長崎大学医学部医学科及び長崎純心大学人文学部現代福祉学科の学生の中でも、たまごの会のメンバー並びにたまごの会の形成に関わった学生とした。なお、感想文については主に、長崎純心大学の学生を対象としていることをお断りしておく。

III. 倫理的配慮

- 倫理的配慮として、日本社会福祉学会研究倫理指針を踏まえ、本研究に関わった個人や団体等の匿名性を守るために、自由記述の文章については、マスキングを行った。



長崎純心大学医療・福祉連携センターによる
「未来医療研究人材養成拠点形成事業」実施体制



IV. 結果

学生が参加した本事業の教育プロジェクト及びイベント

平成25年度当初の

事業計画の中での教育プロジェクト

- 長崎大学
 - 医と社会(共修授業)
 - NICEキャンパス長崎
- 長崎純心大学
 - 地域包括ケア論(共修授業)

事業計画になかった教育プロジェクト

- 地域医療セミナーin GOTO
- 秋田大学での全国シンポジウム
- 九州山口家庭医療学セミナー
- イトコ発見プロジェクト
- 学生がつくる教育福祉シンポジウム
- 九州地域医療教育研究会

学生の主体的活動

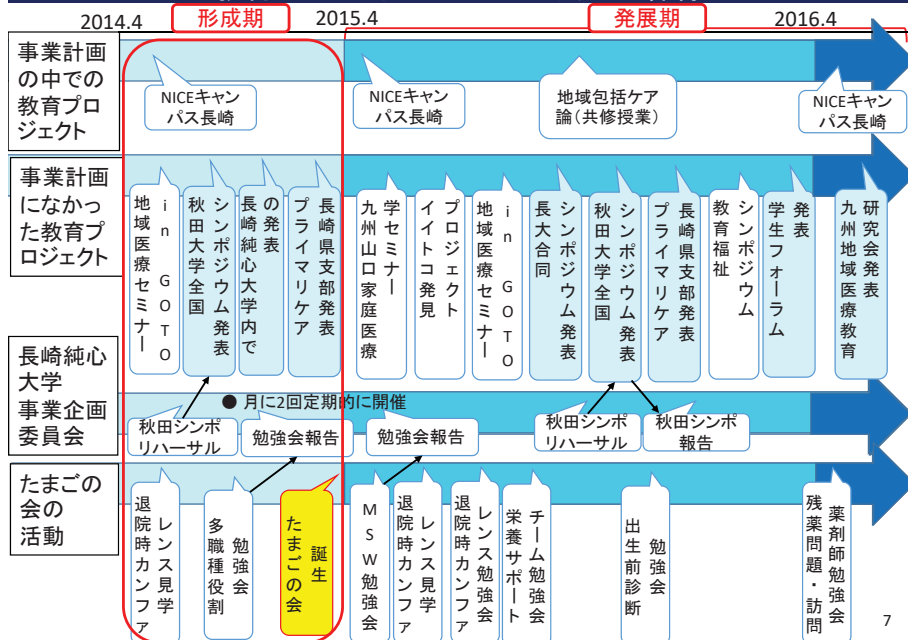
たまごの会の活動

- 退院時カンファレンス見学
- 多職種役割勉強会
- たまごの会誕生
- MSW勉強会
- 退院時カンファレンス勉強会
- 栄養サポートチーム勉強会
- 出生前診断勉強会
- 残薬問題・訪問薬剤師勉強会

長崎純心大学 医療・福祉連携センター 地域包括ケア調査研究 事業企画委員会

- 秋田シンポジウムリハーサル
- 多職種役割勉強会の報告
- MSW勉強会の報告
- 秋田シンポジウムの報告

教育プロジェクトとたまごの会の全体像



たまごの会形成過程までの教育プロジェクト及びイベント

長崎純心大学医療・福祉連携センターによる調査研究活動等

全国調査

本センターでは調査研究活動の一環として、地域包括支援センターの現状と課題を明らかにするために、**全国4,834の地域包括支援センターを対象に調査を実施**(平成26年2月6日(木) 調査票発送)。
平成25年度
 回収された1,217件に対してコーディング作業、データ入力、データクリーニングを行い、最終的には1,206件に対し統計的分析を行いました。作業には、本学学部生及び大学院生の協力を得ています。



学生の感想

今回、全国規模の社会調査の企画段階から調査票作成、データの整理・分析等の作業に参加させていただき、社会調査を実践的に学ぶ機会に恵まれました。特に、調査票作成段階では、現場の先輩へのプレテストを重ねながら慎重に調査項目を検討することで、調査項目の精度が高まっていくのを実感できました。また、収集されたデータを整理する作業では想像以上に細やかな配慮が必要であったことも学びました。大変な仕事でしたが、データが公表されて全国の地域包括支援センターの現状分析や課題解決の一助になればと思っています。自分たちがお手伝いできたことを誇りに思っています。



平成27年3月卒業
(現代福祉学科)

NICEキャンパス長崎

- ①平成26年度NICEキャンパス長崎「地域から世界へ輝く女性たちとそのサポート」全15回
- ②平成27年度NICEキャンパス長崎「地域から世界へ輝く女性たちとそのサポート」全15回
- ③平成28年度NICEキャンパス長崎「目指せ！プロフェッショナル」全15回

医療分野と福祉分野の
学生が交わるきっかけ



第2回地域医療セミナー in GOTO

期日：平成26年8月22日(金)～24日(日)
場所：五島市富江町公民館他
参加者：長崎純心大学 参加教職員5人、学生7人

プログラム

- 地域医療実習
- 講義
- ワークショップ



学生感想

- 本セミナーで医学部生や他学科の学生と意見を交換する中で、**言葉の捉え方**にずれがあることに気づき、そこから、他の様々な違和感がどうして起こっていたのかということについても気づくことができた。たとえば福祉を学ぶ私たちが想定する「地域」は、人間が生活する場所、生活圏域を指しているが、医学部の学生のそれは、離島や僻地を指している。

医療分野と福祉分野の学生がディスカッションする中での**言葉の捉え方の違いへの気づき** 9



伝えたい! 伝わらない

上手く進まない...

言葉から連想するイメージが違ふ

・学部によって、同じ単語でも、その意味が違うことが多かった
《例》「地域」という言葉 づをとりても、多くの医療系学生は、「地域」=「島島への遠地」という意味で異なる場に使っていたが、福祉系学生は、「地域」=「コミュニティ」と捉え、違和感を感じていた。

両大学生が五島セミナーについての発表をするために、何度も話し合い、準備をした。語り合うにつれ、その気づきは「医療と福祉のフレームの違い」だったことを確信した。

全国シンポジウムー日本の国情・2次医療圏の実情を熟考して、理想的医師・医療者育成教育の展開を考える 2014ー

日時：平成26年11月15日(土)12:00～20:30
場所：秋田県(秋田キャッスルホテル)
参加者：長崎純心大学 教員4人
発表者：長崎純心大学 学生3人

気づきを言語化、視覚化し、発表

学生ポスターセッション



長崎純心大学教授会 全国シンポジウム報告

期日：平成26年12月3日(水)
場所：長崎純心大学会議室
発表者：長崎大学医学部5人、長崎純心大学現代福祉学科4年3人、3年1人

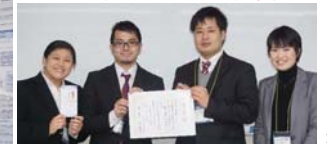


学生感想

- 五島での研修から秋田での学会発表、教授会での発表と継続的な場が作られており、今回のアクションプランの実現に繋がっています。

日本プライマリケア連合学会長崎県支部会第2回総会・学術集会

期日：平成27年2月14日(土)
場所：長崎大学医学部
発表者：長崎純心大学現代福祉学科1人
長崎大学医学部1人



19の発表の中から優秀賞の栄誉

たまごの会形成に向けて学生の主体的取組

教育プロジェクトを経験していき、医療と福祉の学生が共に学ぶことの必要性を意識し始めた学生達は自主的に集まり始める

平成26年12月 退院カンファレンス打ち合わせを見学

医師と社会福祉士、特に医療ソーシャルワーカー(Medical Social Worker)が参加する退院時カンファレンスに興味を持ち、その打ち合わせ会議を見学させて頂いた。専門分野の知識のみでは、患者・利用者さんの診療・支援は不十分と改めて気づく。

見学での気づきや学びを共有するために

平成27年1月 Kickoff 多職種連携を考える勉強会

事例を作成し、退院前・後、半年後、1年後と時系列で患者・利用者さんのニーズとその対処法を考えた。
 ニーズを出しあった時、医学科生は「病気を治すこと」、福祉教育は「利用者と周りの環境に視点を当て支援していくこと」に重点をおいていると感じた。
 ⇒異なる専門分野が有するフレームの違いを再認識した。



平成27年3月 勉強会の方向性を決めた作戦会議

参加者で話し合い、サークル化することで

- ①勉強会の紹介や周知がしやすく、仲間を増やしやすい⇒社会的承認
 - ②所属する場ができ、卒業しても戻ってきやすい⇒基地・ネットワーク化
 - ③顧問の先生方に相談しやすい⇒学生が持たない社会資源のフル活用
- という点から勉強会をサークル化することを決めた。



長崎多職種連携・たまごの会 設立

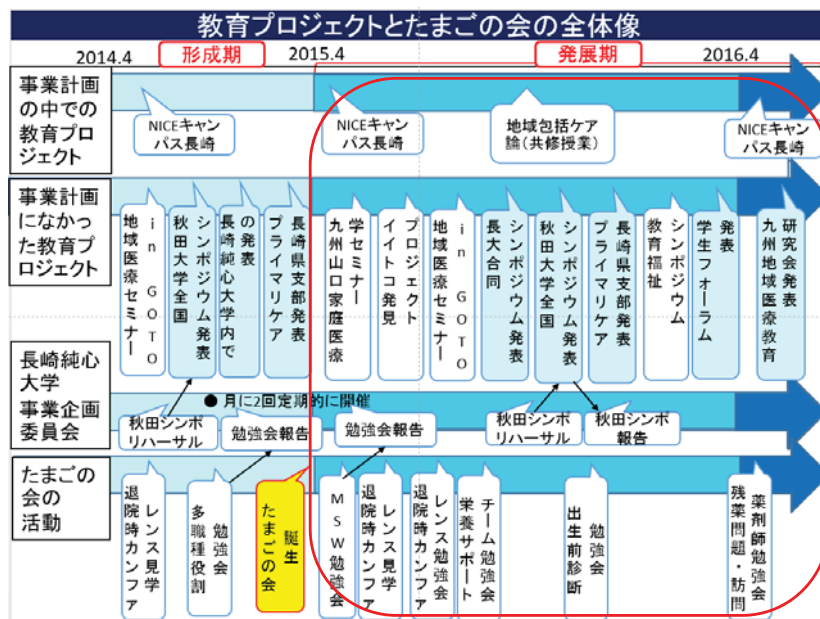
平成27年3月3日 誕生



「多職種のたまご同士が生きた知識を教えあ
 いともに育つ場づくり、そして地域包括ケアを
 引っ張っていく存在になる」ことを目標に掲げ
 「長崎多職種連携・たまごの会」が誕生した。



たまごの会発展過程での教育プロジェクト及びイベント



第2回九州・山口家庭医療学セミナー

期日：平成27年6月20日(土)・21日(日)
 場所：九州地区国立大学 島原共同研修センター
 概要
 ・基調講演 ・セッション1・2・3・4
 参加者：本センター教員3人
 現代福祉学科4年1人
 現代福祉学科3年7人



学生感想

- 自分の専門分野について相手に理解してもらう際の言葉の選び方は難しく、自分の勉強不足を感じた。医療従事者と対等に仕事をしていくために、これからもっと自分の専門分野の知識を深めたいと思った。
- 学生のうちから、色々な専門分野の人と話ができるので、将来仕事をしていく上で必ず役に立ってくると思うし、自分の専門性を深めていく上でも、非常に重要な機会となるのは間違いないだろうと感じた。

イトコ発見プロジェクト

期日：平成27年8月5日(水)～11日(火)
 場所：島根県雲南市大東町上久野 かみくの桃源郷
 参加者：教員2人、現代福祉学科4年生3人、3年生4人
 主なプログラム：地区散策・しめ縄作り・病院見学・アセスメント・プラン発表・住民との交流会



学生感想

- フィールドワークをしたことがなかったので、初めてしてみると、地域の人たちと話し続けることも難しく、地域の特徴をつかむことが難しかったです。

第3回地域医療セミナー in GOTO

期日:平成27年8月21日(金)~23日(日)
 場所:五島市富江町公民館他
 参加者:長崎純心大学 教職員5人、学生7人
 プログラム

- 地域医療実習
- 講義
- ワークショップ

学生実行委員が立ち上がり、前年度の
 経験を踏まえプログラムされた



学生感想

- 今回のセミナーでは授業で修得したことにしても自分の知識がまだ曖昧で、うまく説明できないところもあり、悔しい思いをしました。
- まずは自分の専門分野について極め、他分野の領域について理解を示していくことで、尊敬できる関係ができれば良いと考えました。
- 多職種連携をすることにより、結果として利用者の利益につながると思います。利用者のことを考えた支援方法を多職種で考えていくことが大切だと思いました。
- この3日間のセミナーは、自身の視野が広がり、これまでふれることのなかった地域医療についてもっと知りたいという気持ちが強くなりました。
- これからの大学で学びを深めていくにあたって、良い刺激となりましたし、ここで出会った人とのつながりは大切にしていきたいです。

17

平成27年度 地域包括ケア論の開講

地域包括ケア論

開講日:9月28日(水)~12月12日(水)全15講

場所:長崎純心大学地域連携センター

内容:地域包括ケアシステム構築のための理論と手法
 地域包括ケアシステムを支える地域包括支援センター など

講師:医療・福祉連携センター教職員に加えて、医療や福祉の現場で活躍している専門職を講師に依頼したオムニバス形式



平成27年度長崎大学医学部・長崎純心大学共修授業

開催日:平成27年10月28日(水)、11月4日(水)、11日(水)

場所:長崎大学医学部、長崎純心大学地域連携センター

受講者数:① 医学科2年生124人② 保健学科2年生110人

③ 長崎純心大学3・4年生36人 合計270人



18

全国シンポジウムー日本の国情・2次医療圏の実情を熟考して、理想的医師・医療者育成教育の展開を考える 2015ー

日時:平成27年11月7日(土)12:30~13:30

場所:秋田キャッスルホテル

発表者:長崎純心大学 学生6人

参加者:長崎純心大学 参加教員4人

発表1 第3回 長崎地域医療セミナー IN GOTO

~定義から方法へ、卵一人ひとりが考えた多職種連携とは?~

発表2 『長崎多職種連携・たまごの会』~たまごたちが動きだした!

~医療と福祉のイノベーション from 長崎~



学生感想

- 他大学の学生さんの取り組みについて知り、刺激を受けることで自分自身の意識の向上につながることも実感することができました。
- 五島セミナーやたまごの会、そして秋田全国シンポジウムに参加するにあたって多くの出会いがありました。今回ポスターを製作することで、自分が現在参加している「たまごの会」の活動を振り返ったり、今後より多職種連携を可能なものにしていくためにどのような活動をしていくべきかを考えるきっかけになった。また、長崎大学の医学部の方たちと一緒に協力してポスターを作っていくことで、純心大学の学生のみでの活動では得ることができない刺激を沢山得ることができて、今後の勉強に対するモチベーションが上がった。

19



3. 活動を通しての気づき・構想

①患者・利用者さんを中心と捉える各専門職の視点をしることも必要

②私たち「たまご」は、地域包括ケアを「引っ張っていく」のではなく、「支える」存在である

長崎たまごの会の二つの野望

①「私たちの学びの成果を教育現場にINPUTすること」

②「たまごの会」のような自己組織化したグループが、日本中に浸透し、新たな「たまご」ネットワークが形成されること」

「学生がつくる教育福祉シンポジウム」

日時:平成28年2月13日(土)13:00~17:00
 場所:大阪府立大学I-siteなんば(大阪市)
 内容 ディスカッション、分科会
 参加者 本センター教員3人
 現代福祉学科3年生3人、長崎大学医学科2年1人



大阪府立大学生との交流ディスカッション

日時:平成28年2月14日(日)9:00~10:45
 場所:グランフロント大阪
 内容 フリートークキング
 参加者:現代福祉学科3年生3人、長崎大学医学科2年1人

学生感想

- 普段聞く機会がない他大学で福祉を学ぶ学生の考え方や思いを知ることができてとてもいい機会になった。
- 他の大学生と話す機会というのは相手を知る機会でもあり、また私たちが何をしているか出来ているかを再認識できる絶好の機会だと強く感じました。長崎純心大学でも縦の繋がりを強くして、現代福祉学科で学んでいく後輩が成長できる場づくりをしていきたい。
- 今後自分がどのように学び、活動していくべきかを考える機会となった。特に今長崎大学医学部の学生と純心大学の学生と一緒に活動している「多職種連携・たまごの会」での活動を今後どうして行くべきかということと、卒業までの残り1年で何をすべきかということを変更して考える機会になった。

21

医療と福祉の専門職を目指す学生たちのフォーラム

日時:平成28年3月24日(木)14:00~16:40
 場所:長崎大学良順会館
 シンポジウム



- 「長崎多職種連携たまごの会-活動の紹介・報告-」長崎純心大学現代福祉学科3年
- 「長崎多職種連携たまごの会の今後のビジョン-他大学の学生との関わりから見てきたもの-」長崎純心大学現代福祉学科3年
- 「たまごの会設立から現在に至るまで~私たち学生に必要なものとは」長崎大学医学部医学科2年
- 「たまごの会を通して見えたもの・見えるもの」長崎大学医学部医学科3年



- 学生の主体的な活動によって発展してきた
- 今後の取り組みは、地域に向いていくこと

参加学生感想

- 今回、参加した学生のたちのフォーラムは、これまでの先輩たちの一生懸命な歩みの重さを感じました。また、たまごの会の発足から今までの活動内容、たまごの会に入ったことで得られた学びや心境の変化などを聞かせていただいたことで、一歩踏み出す勇気や行動力、主体性が重要だと勉強させてもらいました。私も先輩たちの背中を見つつも、今しか学ぶことができない知識を精一杯吸収していきたいと思います。今回いただいた感動と学びを新たな仲間とともに今後の活動に活かしていきます！(現代福祉学科2年)

22

第6回九州地域医療教育研究会

日時:平成28年4月2日(土)13:30~
 場所:九州大学医学部 百年講堂中ホール1・2
 発表者:現代福祉学科4年3人、長崎大学医学部2年2人
 演題『「長崎多職種連携・たまごの会」
 ~医療と福祉のイノベーション from 長崎~』



発表概要

- ① たまごの会発足の経緯
- ② たまごの会の活動
- ③ 今後のビジョン



学生感想

- 今後もこのような機会があれば積極的に参加し、地域包括ケアを支える存在になる「たまごの会」を全国に広めていきたいと思っています。
- 他大学の学生さんの具体的な取り組みを知ることができたので、参考にしてたまごの会の活動や大学での活動に活かしていきたいと思っています。
- 私たちのサークルの発表を聞いて、興味を持ってくださった先生方や学生が個人的に話を聞きに来てくださったり、また、私たちから他大学の勉強会に参加をさせてほしいということをお願いしたりと、お互いのことを知れるととてもいい機会になりました。



ネットワークの拡がり

その後、知り合った学生たちとは互いの主催する勉強会へ参加し合う関係性へ発展

23

たまごの会について

たまごの会のメンバー構成

大学	学部
長崎大学	医学部 医学科
	医学部 保健学科
長崎純心大学	人文学部 現代福祉学科
	人文学部 比較文化学科
活水女子大学	健康生活学部 食生活健康学科

他大学・他学科の学生が入部
現在、約30人



顧問:長崎大学地域包括ケア教育センター
 永田康浩先生

たまごの会の主な活動内容

- 定期ミーティング(月1回)
- 学生主催の勉強会
- 医療系・福祉系施設見学

サークルに入っていない他大学の学生、社会人も参加可能

定期ミーティング

アイスブレイク
 近況報告TIME
 ディスカッションTIME

学生主催の勉強会

★唯一のルール
 施設見学をしたら、必ず勉強会を開催するメンバーになる。

※平成27年秋田大学「全国シンポジウム」学生ポスターセッション発表資料より作成

24

学生主催の勉強会

「MSWを知ろう会」

日時:平成27年4月19日 9:30～12:00
 場所:長大坂本キャンパス
 内容・アイスブレイク
 ・プレゼン(社会福祉士、医療ソーシャルワーカー(MSW)の説明)
 ・講演
 ・グループディスカッション、発表、フィードバック
 ・事例紹介
 ・グループディスカッション



「緩和ケアカンファレンス見学共有」

日時:平成27年7月4日(土)13:30～
 場所:長崎純心大学地域連携センター
 参加者:長崎純心大学29人,長崎大学6人
 内容
 ・アイスブレイク
 ・たまごの会の緩和ケアカンファレンス見学活動報告
 ・医療ソーシャルワーカーから講演
 ・グループワーク「多職種連携ってなあに」,発表
 ・フィードバック

学生主催の勉強会

「出生前診断を知ってる会?～さまざまな生命のあり方について考えよう～」

日時:平成28年1月16日(土)13:00～15:00
 場所:長崎大学医学部ポンペ会館
 内容
 ・ミニレクチャー
 「出生前診断ってなに」「出生前診断の現状」
 ・講演
 「妊娠そして告知～その先にあるもの～」



「残薬について知ろう!★多職種で節薬、残薬をなくそう!」

日時:平成28年3月26日(土)13:00～15:00
 場所:長崎大学医学部坂本キャンパス
 内容
 ・アイスブレイク
 ・薬剤師について
 ・ディスカッション
 ・ゲストスピーカーを招いて講演



新聞

たまごの会 外部からの評価



平成27年10月21日 長崎新聞記事

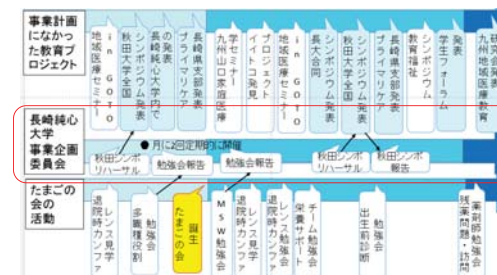


平成28年5月25日 長崎新聞記事

本センターにおける学生のサポート

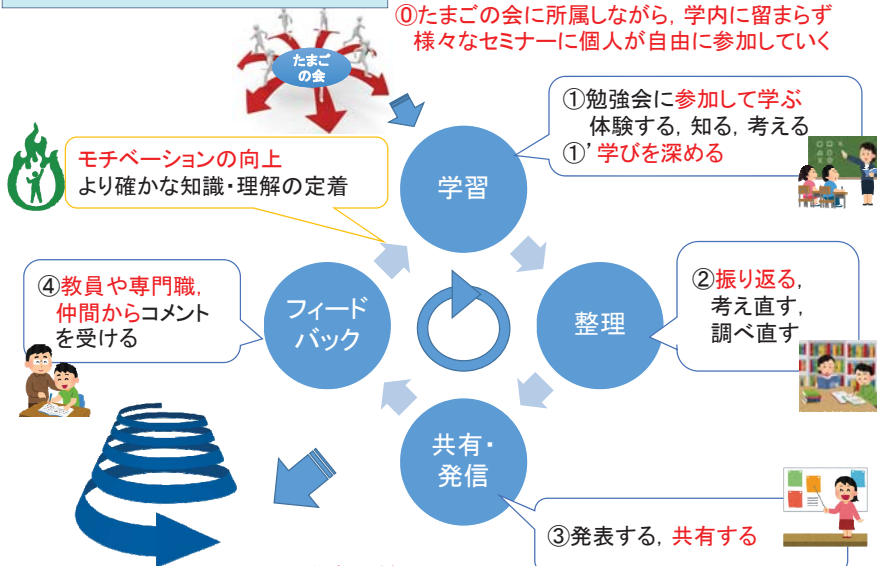
長崎純心大学 医療・福祉連携センター
 地域包括ケア調査研究事業企画委員会

目的:医療・福祉連携センターが企画する事業を理論面と実践面からサポート
 開催:原則として、第2、第4月曜日に開催
 場所:長崎純心大学地域連携センター(長崎市扇町)
 参加者:福祉系大学教員、地域包括支援センターの社会福祉士、病院の医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)、長崎大学地域包括ケア教育センター教職員、長崎純心大学医療・福祉連携センター教職員、県医療職員、長崎純心大学生、長崎大学医学部生他



- 秋田大学学生発表前に検討
- セミナー参加後、学生報告
- たまごの会勉強会の報告

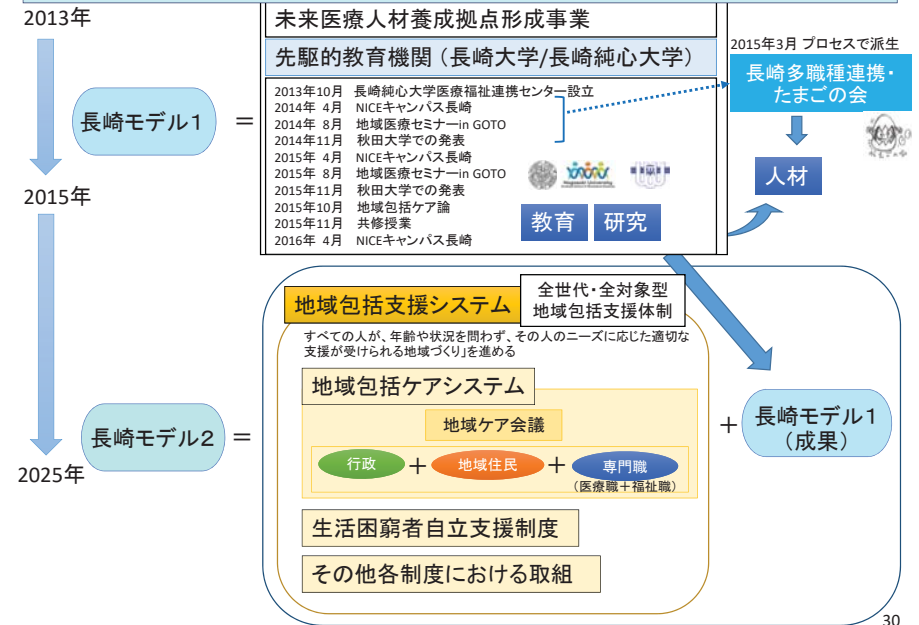
たまごたちの学びのサイクル



※平成28年9月17日「医療と福祉の融合が導く次世代の医療人育成」シンポジウムにおける学生活動報告資料を大幅に加筆修正したものである。

29

本事業を通じた医療と福祉の多職種連携教育成果 長崎モデル



30

V. 考察

平成25年度当初の

事業計画の中での教育プロジェクト

事業計画になかった教育プロジェクト

本事業の教育プログラムの中での成果

- 人材育成
- 教育効果

本事業の教育プログラムの中での副次的成果

- 長崎多職種連携・たまごの会 設立
- 他大学の学生と刺激を与え合う関係形成

- 本報告において、本事業の教育プロジェクトによって「言葉の捉え方の違いに気づいた」等の多職種連携教育の主たる効果と、たまごの会が形成され、学生が主体的・能動的に学習する(アクティブ・ラーニング)姿勢につながったという副次的な効果を得られたことが大きな成果の一つであると考えられた。
- 加えて、たまごの会のメンバーが、他大学の学生と交流し、互いの主催する勉強会へ主体的に参加し合うことによって、他大学の学生と刺激を与え合う関係形成がなされているという波及効果が生じていることが明らかになった。
- 今後の研究課題としては、今回収集し、整理した資料等をもとに、学生の学び・感想と教育内容や出来事の関連性について客観的方法を用いて分析、検討し、将来を担う多職種人材養成教育にあたり、どのような教育内容や教育体制が必要であるか考察していくことがあげられる。

※ 本研究は、文部科学省の「平成25年度 未来医療研究人材養成拠点形成事業【テーマB】リサーチマインドを持った総合診療医の養成」に係る研究成果の一部である。

31